

第 2 回	<p>テーマ：分娩期の経過診断（１）（前田幸）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩開始の診断と対応について解説する。 ・分娩の３要素を中心に分娩の経過および母子の健康診断について解説する。 <p>模型等を使いながら、グループにてディスカッションを行う。</p>
第 3 回	<p>テーマ：分娩期の経過診断（２）（前田幸）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩の３要素を中心に分娩の経過および母子の健康診断について解説する。
第 4 回	<p>テーマ：分娩期の経過診断（３）（前田幸）</p> <p>演習①</p> <p>CTG の判読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いて CTG の判読演習を行う。
第 5 回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（１）（前田幸）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩経過に沿った産婦及び家族の支援について解説する。
第 6 回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（２）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>演習②</p> <p>CTG モニター装着、産痛緩和、呼吸法、内診、胎盤計測、出生直後の児の観察について演習を行う。</p> <p>第 6 回と第 7 回は連続して行う。</p>
第 7 回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（３）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>同上</p>
第 8 回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（１）（前田幸）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助法 <p>分娩の意義および原理、分娩介助技術の方法について解説する。</p>
第 9 回	<p>テーマ：テーマ：分娩期の助産技術（２）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>演習③</p> <p>分娩介助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助について解説を交えながらのデモンストレーションを行う。 ・産婦、直接介助者、間接介助者の役割を理解し演習を行う。
第 10 回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（３）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩期に取り扱う記録について解説する。 <p>演習④</p> <p>パルトグラム・助産録の記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩期に扱う記録について実際にパルトグラム・助産録を記載しながら演習を行う。 <p>第 10 回と第 11 回は連続して行う。</p>
第 11 回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（４）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>同上</p>
第 12 回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（４）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>演習⑤</p> <p>分娩期のケア</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いて情報収集、アセスメントを行い、産婦の支援を実施する。情報やアセスメント、実施したケアについて記録を行う。 ・今後の分娩経過について予測し必要なケアを考える。 ・アセスメントやケアについて発表やディスカッションを行い、学びや気づきを共有し、レポートにまとめる。 <p>第 12 回と第 13 回は連続して行う。</p>
第 13 回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（５）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>同上</p>
第 14 回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（６）（外部講師）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースタイル分娩の介助技術について解説する。 <p>第 14 回と第 15 回は連続して行う。</p>
第 15 回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（７）（外部講師）</p> <p>演習⑥</p> <p>フリースタイル分娩介助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の助言をもとにフリースタイル分娩の介助について演習を行う。
テキスト	<p>助産学講座 6 助産診断・技術学〔2〕分娩期・産褥期 我部山キヨ子他編 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第 5 巻 分娩期の診断とケア 佐々木くみ子編 日本看護協会出版会</p> <p>病気がみえる Vol.10 第 4 版 MEDIC MEDICA</p> <p>根拠と事故防止から見た母性看護技術 石村由利子編 医学書院</p> <p>産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 発行：日本産婦人科学会 編集・監修：日本産婦人科学会/日本産婦人科医会</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>科学的根拠にもとづく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 2013 厚生労働科学研究妊娠出産ガイドライン班 金原出版株式会社</p> <p>エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期 2024 一般社団法人日本助産学会ガイドライン委員会 日本助産学会</p> <p>助産業務ガイドライン 2024 日本助産師会助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会</p> <p>今日の助産 マタニティサイクルの助産診断 北川真理子他編 南江堂</p> <p>WHO の 59 か条お産のケア実践ガイド 戸田律子訳 農文協</p> <p>他、指定図書も参考にしてください、必要に応じて資料を配布します。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>小テスト、レポートや課題、演習に関してのフィードバックは授業中もしくは Classroom にて行います。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>母性看護学に関する知識と看護技術について復習しておいてください。</p> <p>講義で得た知識や助産技術の方法を演習を通して実施します。そのため、知識はもちろん正しい技術の習得や助産師としての態度を身につけるために助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵと関連づけて学習し、予習・復習をして授業に臨んで下さい。</p> <p>技術の習得をするために、練習時間をとりますので各自、技術練習に励んでください。</p> <p>演習では、身だしなみを整えて臨み、模型などの教材は丁寧な取り扱いを心がけましょう。</p> <p>準備・後片付けも自主的に行いましょう。感染対策に留意した行動をとりましょう。</p>

